



パークアンドライド(早雲山)

駐車場の収容能力は、バス7台・乗用車146台に限られているため、時間帯によっては需要に対応できないことが渋滞の原因となっている。

3 点目について、引き続き平成19年度においても、渋滞の緩和効果や本格実施に向けた実施課題の把握を目的に、湖尻方面からのパークアンドライドの社会実験、大涌谷駐車場の時間料金制の検証、そして大涌谷湖尻自然探勝路を活用したパークアンドウォークの社会実験などを実施し、平成20年度末までに大涌谷の交通渋滞の緩和に向けての具体的な方策を取りまとめるものである。

町としても、パークアンドライド利用者の9割以上の方

が「よい」と回答していることから、本格実施をすれば効果も期待できるので、積極的に取り組んでいきたい。

①既存の税の中で町が導入していない税(都市計画税の導

土地利用

大涌谷における交通渋滞について

Q

次の3点について伺う。
1 大涌谷の交通渋滞の現状や原因などをどのように捉えているか
2 昨年10月に実施したパークアンドライドの社会実験の結果はどうだったか
3 今後の交通渋滞をどのように対応するのか

A

大涌谷は観光ピーク期になると、1日約2,000台近くの車両が流入して、駐車場の収容能力は、バス7台・乗用車146台に限られているため、時間帯によっては需要に対応できないことが渋滞の原因となっている。

A

3 点目について、引き続き平成19年度においても、渋滞の緩和効果や本格実施に向けた実施課題の把握を目的に、湖尻方面からのパークアンドライドの社会実験、大涌谷駐車場の時間料金制の検証、そして大涌谷湖尻自然探勝路を活用したパークアンドウォークの社会実験などを実施し、平成20年度末までに大涌谷の交通渋滞の緩和に向けての具体的な方策を取りまとめるものである。

企画財務

箱根町の財政運営と経営について

Q

次の3点について伺う。
1 住民サービスの見直しや、使用料の更改・受益者負担についてのこれまでの検討内容とその結果について
2 各種新税(都市計画税等)の導入についての検討や、新たな税財源をどのように求めていくのか
3 合併を選択しなかった多くの自治体の行政改革に対する所見と今後これらの自治体について、どのように参考にされるのか

A

1 点目について、まず「住民サービスの見直し」であるが、専門部会では、調査・研究項目として、福祉部門77項目、環境部門3項目、教育部門16項目、その他9項目の計105項目をあげ、そのうち平成15年度には21項目、16年度には16項目の

A

「よい」と回答していることから、本格実施をすれば効果も期待できるので、積極的に取り組んでいきたい。

計37項目について、箱根町と県西地域2市7町とさらに当時の修善寺町の事業内容の比較検討したものであり、調査結果については、本年1月に議員の皆さんにも配付をさせていただいたものである。

次に、使用料の更改・受益者負担についての検討内容であるが、「使用料、手数料等、受益者負担の適正化」専門部会において、「町が行う行政サービスを利用する特定の方が利益を受ける」とことと位置付け、その受益の範囲内で当該行政サービスの対価として、自分の負担をしていたら、調査・研究し、その結果については、料金改定の際に、統一的な計算方法により試算する方法として町内全課に指示しており、近隣の類似施設の料金も考慮するなど、他の要素も考えて料金設定をしている。

2 点目について、「各種税の導入」専門部会において、①既存の税の中で町が導入していない税(都市計画税の導

入)②新規に考えられる税の導入③既存の税の税率改正の3点について研究をしたものであり、いずれの方法についても、その使途を明確にし、期限を区切り、さらには、最も重要なのは、納税者の理解を得なければならないことなど、超えなければならないハードルがいくつもあるが、町としては、新税の導入よりも、既存税目の超過負担を納税者の皆さんにお願いをするほうが理解していただけるのではないかと考えている。

3 点目について、行政にはそれぞれ地域性・特殊性という中での産業構造などの違いもあるが、そうした中で各市町村においては、行政改革を行い、財政再建に向け自立した市町村として努力されていることと想っている。

なお、本格的な人口減少期を迎える中、今後も箱根町が現在の行政水準を維持しながら自主自立の道を歩んでいくためには、さらに厳しい行政改革が避けては通れないと考えられ、住民の皆さんにも相応の理解をお願いしている。